

10/29 「信仰の創始者であり、完成者であるイエス・キリスト」 (ヘブル人への手紙12:1、2)

中村 敏師

聖書を読んでいきますと、私たちの人生や信仰生活が、よく長距離レースにたとえられています。この箇所でも、私たちの地上の歩みが長距離レースにたとえられています。11章では、まず「信仰」の定義がはっきりとなされ、この信仰によって生きた先輩たちがアベルからサムエルまで16人紹介されています。こうした多くの信仰の先輩たちがすでに天国にあり、雲のように私たちを取り巻いているのです。そして「さあ、今度はあなたがたがこのレースを走りぬく番ですよ」と私たちを祈りつつ応援しているのです。この信仰のレースを最後まで走りぬくために、2つのことが大切です。

①「いっさいの重荷とまつわりつく罪とを捨てて」 走ることです。

身軽になって走らなければ、長距離レースを走り続けることはできません。私たちが信仰生活をしていく中で、重荷や試練は必ず出てきます。しかし重荷や試練があるということは、私たちが信仰を働かせるチャンスでもあります。自分の力や知恵に頼ることを止め、主に委ねる時に力をいただき、平安をいただくことができます。

次に「まつわりつく罪を捨てて」とあります。クリスチャンになっても、私たちを躓かせようとするサタンの誘惑の力は大きなものです。クリスチャン生活は、罪との戦いの生活でもあります。イエス様は実に巧みなサタンの誘惑に対し、すべて聖書の言葉をかかげて勝利されました。イエス様でさえ、御言葉を握りしめて勝利されたのです。これこそ私たちのモデルです。

②もう一つは、ゴールを目指して最後まで走りぬくことです。

私たちの目指すただ一つのゴールは「信仰の創始者であり、完成者であるイエス・キリスト」です。成功することではなく、イエス様に似た者となることが私たちの生涯の目標です。

そして途中でリタイアしないで、最後まで走りぬくことです。私たちの信仰のレースは、周りの人と競争し、人を押しのけてゴールインすることが目的ではありません。つつい私たちは、イエス・キリストよりも周りの人を見やすいものです。信仰と言う霊的な世界でも、時として神より人を見てしまいます。しかし私たちはイエス・キリストから目を離すことなく、天国までの歩みを最後まで続けましょう。そして私たちの後に続く人々にこの素晴らしい福音をしっかりとバトンタッチいたしましょう。